

学友会東京支部だより

南高

発行 和歌山県立南部高等学校
学友会東京支部
事務局 〒363-0022
埼玉県桶川市若宮1-8-12-204
TEL・FAX 048-786-3514

第8回南高学友会東京支部総会

平成29年6月18日(日)、第8回東京支部総会を前回と同じ東京ドーム近くの「水道橋グランドホテル」で開催いたしました。

来賓として、本部会長の小谷芳正みなべ町長、大阪支部からは小谷英男事務局長がご多忙の中ご列席くださり、総勢33名が集いました。

総会は11:40から山寄支部長の挨拶、小谷会長の挨拶で始まり、その後活動・会計報告に関する1号～5号議案が承認され、新役員体制で第8期がスタートいたしました。

12:30からの懇親会は、小谷英男事務局長の乾杯の音頭と挨拶で始まり、平成29年春の叙勲で瑞宝重光章を受章された竹中美晴さんに受章のお祝いと花束贈呈が行われ、会場一同でその慶事の喜びを分かち合いました。

特に、今回は2016年8月にプロ歌手としてメジャーデビューした川島ケイジさんが最年少者(1995年卒)で参加し、類稀なる声で「メロディ」を歌ってくださり、プロの美声と歌唱力に皆が酔いしれ、会場が盛り上がりました。

その後、会報編集でご苦労頂いている櫻井さんの挨拶や、竹中(司郎・美晴)さん兄弟からは、南高梅が100品種の中から5年かけて安定して収穫できる品種を選抜したものだというお話をご披露いただき、故郷みなべの特産品である「南高梅」について認識を新たにするとともに、大変なご苦労があったことを実感いたしました。

恒例の余興のビンゴゲームでは、前回に引き続き、会員のご厚意で梅干・非常袋・Tシャツなどの景品の提供をいただき、楽しい時間を過ごすことができました。

会場には、川口光雄さんが持参された昔のみなべ町の風景写真が展示され、大変好評を得ました。また、川島ケイジさんのCDも多くの方々の購入により、完売いたしました。

締めくくりは恒例の「校歌斉唱」。皆、高らかに誇らしく歌い、無事閉会となりました。

会員の年齢がだんだんと高くなり、総会への参加者も減少してきていますが、参加された方は懐かしい人々との会話を楽しみ、この日のひとときを故郷への思いに浸ることができ、とても楽しい総会・懇親会となりました。

(事務局 森下 記)

第8回 南高学友会東京



小谷 芳正 みなべ町長

小谷 英男 大阪事務局長





シンガーソングライター 川島ケイジさんの紹介

南高学友会東京支部の会員の中に、2016年にメジャーデビューをした「川島ケイジ」というシンガーソングライターがいます。2017年入会、会員の中では最年少者です。

彼の活動を知らなかった私たち東京支部の役員は、昨年4月11日に渋谷区文化総合大和田さくらホールでコンサートがあるという情報にも都合がつかず、6月18日に開催された第8回総会・懇親会で初めて彼の歌声を聴きました。

当日の悪天候の中、大きなギターケースを担いで総会・懇親会に参加、私たち同窓生の前で歌ってくれ、大変感激しました。レコーディングした何十枚かのCDも参加者が買い求め、完売となりました。

私はその後、TV番組「ミュージックフェア」やBSの音楽番組で彼の歌を聴きました。さらに、12月12日サントリーホールブルーローズでのワンマンコンサートや、今年2月12日田辺市紀南文化会館大ホールでの「SPECIAL CONCERT 2018」では、彼の歌声を全身に浴びて大いに酔いしれました。文化会館のコンサートに一緒に行った岩代在住の友人が、「類稀なる歌声に、素晴らしい容姿に恵まれたシンガーソングライター！」だと、興奮気味でした。

2016年8月ユニバーサルミュージックよりメジャーデビューしたその10月に紀南文化会館大ホールで第1回のコンサートを開き、今回は第2回目のコンサートでした。川島さんの希望で、「とても可愛らしい梅の花を見てほしいから」と、この時季にコンサートを開いたのですが、この2月の気温は東京より低い毎日が続き、梅は1~2部咲きで、観梅には程遠い状態でした。

大きなコンサートを控えながら、1月に帰省して夜の街でのコンサート宣伝に努めたり、2月に入り県内のTSUTAYA店舗でのミニライブ、南部梅林でのミニライブ、「UME-1グルメ甲子園」特設会場でのミニライブ、弘龍庵開教祝賀会ステージに出演したりと、多忙を極めたことと思います。

1000人超の来場者を魅了した紀南文化会館のコンサート終了後も、2日後に東京・目黒のライブハウスでの「川島ケイジ St. Valentine Special LIVE 2018」を、そして4月1日「川島ケイジ Special Live in KOBE」をこなし、「ふるさと大使」として、“類稀なる歌声をもち、魂から生まれる歌唱、そして抜群の存在感を兼ね備えたシンガーソングライター”ぶりを発揮して、聞く者に感動を与えています。今後ますますのご活躍を！

(杉野 雅子 記)

青い海に抱かれた
日本一の「南高梅」の里

紀州「みなべ温泉」
旧入会館
紀州路 みなべ

〒645-0004 和歌山県日高郡みなべ町埴田1540
TEL. **0739-72-3939** (代表)
<http://www.kishuji-minabe.jp/>

読雨耕晴の私のなるどう



昭和43年卒 藤川 安夫
(東京都中野区 在住)

私は、昭和24年南部町で生まれ、18才で上京、以来東京在住50年、もうすぐ70才を迎える。人の人生は、人間万事塞翁が馬と思い、私自身も成り行き任せで十分だとの認識できたので、漠然とした人生のグランドデザインすら持っていなかった。ところが、人生90年時代を迎えた現在、今は、徐々に身体や身辺の変化に気付き、この先のことを思案するのにも一考かと思うようになった。

他人から、これからの人生は、「晴耕雨読、悠々自適でいいですね」と言われたことがある。

物の本によると、「晴耕雨読とは、晴れた日は田畑を耕し、雨の日は屋内で読書すること。世間の煩わしさを忘れて自由気ままに生活することで、悠々自適として自然のままに生きる様を言う」とある。成程と思う反面、我が人生の中では上手くやっていけるのかどうかは非常に疑わしい。

まず、晴耕である。都市住民となった私には、これが意外と難しい。というのは、晴れた日に耕作したくとも田畑がないのである。和歌山の農地は遠く、時間的にも経済的にも維持することは不合理だ。農家の長男でありながら1坪たりとも相続もしていない。また、近隣の農地は取得が困難で、負担も大きく諦めている。そもそも、私は農耕が苦手で、耕作を断念することに対しては何らの痛痒も感じなかった。

晴耕の解釈には、スポーツ・旅行・趣味等が当然含まれるのであろう。

スポーツは高校時代に柔道をした事があるが、その後始めた女子プロについてのゴルフ、教室に通ったテニスに太極拳などは半年程度、すべて入り口の段階でリタイアしている。唯一、18年間続く週1~2回の



皇居一周の散歩のみ残っているのが現状だ。

旅行は好きで、富山・高知県以外は周遊した。海外にも約60ヶ国訪れたが、葬式・法事等が重なり今は行かなくなってしまった。趣味は無趣味である。読書は雨読に譲るとするが、六十の手習いでクラリネットを始めたことがあった。手元にあった子供のほぼ新品のクラリネットが勿体ないと思ったからだ。心肺機能によく、しかも、上品な趣味になりうると思い飛びついたのである。しかし、残念なことに、我が才能が追い付けず、日向の氷のごとく雲散霧消してしまった。私の場合、晴耕の継続は難しいというのが実感である。

次に、雨読である。これは晴耕よりも問題が少ない。何故と問われると、ブックオフがあるからとしか返事のしようがない。新刊本だと数千円のものが数百円で購入できる場合もあり魅力的だ。

歴史小説が好きで、司馬遼太郎などを乱読したが、酒席等ではよく機能していたことを覚えている。

最近、新聞記事で、ローマ帝国の衰亡原因が210を数えるという、世界史上の中での大きな論点の一つと知り、ブックオフでローマ帝国関連の本を蒐集している。中国の隆盛・米国の退潮という客観情勢とも重なり興味深い。ついでに孫の幼児本も手に入れた。

私の晴耕雨読はどのようなのであろうか、晴耕は、今後とも見通しがよくない。雨読には強い味方がいることだけが分かった。お笑い中心のテレビが詰まらなくて無理半ばで始めた雨読ではあるが、「仕にして学べば老にして衰えず、老にして学べば死して朽ちず」というのではないかと思い、何とか継続してゆきたいと願うこの頃である。



梅をつむ贅
幸つみ
『黄金漬』をやわらかな道東産の柿前昆布で
つつんだまろやかで旨味豊かな梅干しです。



元祖はちみつ梅
黄金漬
選りすぐりの紀州南高梅とはちみつが
醸した、まろやかで上品な梅干しです。

梅
はちみつ

通信販売カタログ・商品のお問合せ、お求めは

フリーダイヤル
電話

0120-197-832

受付時間 平日/午前8時~午後8時 土曜/午前8時~午後5時

〒645-0027 和歌山県日高郡みなべ町西本庄1224

株式会社梅一番井口

FAX

フリーダイヤル

0120-319-515

FAXおよびホームページでは24時間、受け付けております。

http://www.ume1.com/





陽だまりの中でふと思う

高芝 岩雄

みなべを出てから長い時を旅してきました。
人生も終盤に入って考えることが多くなった。

良かろうが、悪かろうが 優しくないより 優しい方が良い。
浅かろうが、深かろうが 考えないより 深く考えた方が良い。
過去に戦争もやり、人も殺しに行き、奪いもした。

そして今、戦わぬ婦女子や民までが、殺されることを承知しながらも
手助けをする政府や政治家に、疑問と不満を持ちながら
何も言わず、何もせず、愚かな生活を営んでいる。

自分の生活を維持できる範囲の中で、反対行動と、
自分の良心に褒められたいだけの偽善行為をしながら、
雨露を凌ぎ、温かい飯を食らい、
その身から出される排出物ですら

自分の手で処理も出来ずに温水で流している。

無意味であらうが、無かろうが、その部分を考えぬよりは考えた方が良い。
そして人生最後に大切だったことは、無償の愛と優しさだと、
死に逝く前にふと気付く 間に合わぬ後悔をしながら最後の一時 安らかに眠れば良い。
そして輝く人生に乾杯しよう。

20代では美しく輝いて 30代では心強く逞しく
40代では賢く世を渡り 50代では心豊かに晴れやかに
60代では健やかに 70代では頑固でしなやかに
80代ではつややかに 90代では愛らしく生き抜いて
昔の事はみな忘れ いぶし銀のように美しい100歳へ
百歳越したら何時までも 色気を忘れず身を整えて
病にかからず 怪我もせず
迎えが来るまで元気で長生き 3日患って
楽しく笑顔で 安らかに旅立って行けたら良いと思っている。



ユネスコと能楽と私

昭和38年卒 坂本 龍
(横浜市港南区 在住)



私儀、昭和38年南高卒後そのまま医学徒として上京した頃には無かったこの南高学友会東京支部会活動でしたが、平成14年に編纂された100周年記念学友会名簿を機に始まった際には、今は亡き柳本茂樹先輩が音頭を取られたと記憶致します。

前回この東京支部だよりに能に関する駄文を載せていただいたのが平成19年でしたから、11年ぶりの紙面お伺いとなります。この間、平成10年からの横須賀での内科開業医を妻子の手助けもあって維持できまして、その傍ら入門半世紀の能舞台謹仕にも精力的に関わって参りましたので、ふたたびその能楽へのお誘いをさせていただきます。

現代の能楽の世界的立ち位置となりますと、2001年に始まった国連教育科学文化機関(UNESCO)による世界無形文化遺産登録事業において、本邦からまず能楽が芸能分野の傑作として登録されたことにつきます。その後には、文楽・歌舞伎・雅楽と続き、和紙・和食・山鉾巡行等々、目下の登録は22件を数えます。ちなみに、文明と経済の大国であるアメリカからは、白人による原住有色人種の駆逐という負の遺産ゆえに無形文化遺産の登録はありません。

この能楽を古来に遡ると、奈良時代に中国から渡来した散楽と称する大道の見せ物芸(軽業・奇術・滑稽物まね)に端を発し、物まねの猿(申)楽や農耕祈祷の田楽へと姿を変え、有力神社仏閣や足利権勢の庇護を得たことから賤民の芸事を脱し、幽玄無上の音楽演劇である能楽へと進化を遂げました。そして能独自の芸論を花伝書その他諸々の伝書に書き留め、また数々の名曲を残した世阿弥こそ能楽の祖師であり、現行曲200余番のメインはやはり世阿弥作の夢幻能につきます。

シテは歴史や説話から抜き取った人物ではありますが、神・男・女・狂・鬼といったひながたに合わせて蘇り、或いは空蝉にデフォルメされ、謡と舞の演技テクニックによって「雅、わび、さび」といった和風特有の深い味わいを帯びた喜怒哀楽となり、それは幽玄無上ゆえに年年歳歳の花々に似て飽きられないのがないのです。

お時間が許せば何卒ご一見のほどを願い奉ります。



国立能楽堂



伝統の製法を守りながら
漬上げた梅干が「くめ」なのです。



特選A級
紀州南高梅使用

め®



紀州でまりのように丸くてやわらかい梅一粒を
大事に大切に心を込めてつつみました。

まりおとめ
毬乙梅®



井上梅干食品株式会社
〒645-0012 和歌山県日高郡みなべ町山内1095-1

TEL. ☎ 0120-01-2730 FAX. ☎ 0120-04-2412

本社

0739-72-2730

みなべ店 0739-72-5223

高野山店 0736-56-4774

ホームページ : <http://www.kumaheinoume.co.jp/>

2017年秋の散策に参加して

昭和38年卒 稲井 清子 (神奈川県茅ヶ崎市 在住)

昨年に引き続き、娘に付き添ってもらってリハビリのつもりで参加した。

1年前に比べもう少し力強く歩けるつもりでいた。だが、緩やかな登り坂を歩き始めてみると、折りからの強い向かい風に押し戻されるかのごとく、前に進まない自分にがっかり。どうにか坂を登りきり、やっと西念寺(浄土宗西山派のお寺)に到着。本堂に入って椅子に座り、一息ついた部屋の掛け軸にあった言葉が『自然法爾』(じねんほうに:仏教用語で、ありのままに任せて生きること)。意味を娘にスマホで調べてもらったら、それ!それこそ



西念寺



服部半蔵のお墓 西念寺



稲井さん母娘

今の私の生き方じゃないか、皆様の迷惑になると思いつつ、今の私はこれなのだ、あ~このままでいいんだなあ、と胸に熱いものがこみ上げてきた瞬間だった。

アテネの神殿を思わせる石の大円柱立ち並ぶ四谷見附公園で、お弁当を広げる。歓談しながらのランチタイム。どなたかから色々な物がまわってくるのはいつもの光景。紀州のみかんの飴もまわってきた。疲れた体には甘いものが最高。それ!!と元気が出て、今日の目玉の最終目的地、国宝の迎賓館赤坂離宮まで歩けた。かつて紀州徳川藩の江戸中屋敷があった所、明治32年に建てられたものだそうで、嚴重なセキュリティチェックの後、テレビでしか見られないきらびやかな大広間をいくつも見学できた。私の万歩計は1万歩をカウント。娘はもちろん、学友会の方々にも気を遣っていただきながらも完歩できた!よろこびです!

全く個人的なことだが、2015年6月くも膜下出血で倒れて、こんなに早くこんな日が来るとは。手術しても、一生、車椅子になるかもしれない、と言われていたらしいのに。信じられない。感謝感激の1日だった。

ありがとうございました。



四谷散策と赤坂迎賓館見学

昭和62年卒 富松明子
(神奈川県茅ヶ崎市 在住)



須賀神社

去年の秋の散策に続き、今年もリハビリ中の母の付き添いとして、参加させていただいた。

集合はJR四ッ谷駅、赤坂口。お昼から参加の1人を除いた17人が、いつものように【南高】の旗を目印に集まり、最初の目的地、専称西念寺へ。

なだらかな坂道で、いきなりの向かい風。後で知ったが、この日は都内では木枯らし1号を観測していた。台風一過の雲ひとつない晴天だったが、この強い風と坂道の街で、母には少々きつめのリハビリとなった。

西念寺は、徳川家康の家来の1人、服部半蔵が開基となり開創された寺。忍者の印象が強い服部半蔵だが、実は槍の名手の武士であり、徳川家康より授かったという半蔵の槍が今でも寺宝として保管されている。私たちは、寺の住職と共に南無阿弥陀仏を唱えたのち、槍を見学させていただいた。焼失により180センチほど短くなったそうだが、今でも十分に長く、太く、重そうで、これを扱っていた服部半蔵の力強さに思い馳せることができた。

西念寺の次は、観音坂を下り、須賀神社へ。新宿区指定有形文化財の三十六歌仙絵をその本殿内に見ることができる。また、須賀神社の階段は、2016年に公開され大ヒットした映画「君の名は。」を代表するシーンに登場し、映画のファンが『巡礼』する『聖地』のひとつになっている。この日も、外国からの旅行者が、この階段で映画と同じポーズを取って撮影をしていた。

次に訪れたのは、於岩稲荷田宮神社(陽運寺と田宮稲荷神社跡)。お岩さんといえば、四谷怪談だが、江戸時代に実在したお岩さんは家庭をととても大事に

した貞淑な妻だったらしく、そこから、悪縁を切り良縁を結ぶ寺となっている。絵馬も、【切】と【結】の二種類が用意されていたのが印象的。また、田宮稲荷神社跡には、東海道四谷怪談を上演する際には必ず参拝されるという歌舞伎界の蒼々たる方々の玉垣があった。

さて、強風の中の坂の町。闇坂(くらやみざか)を右に見ながら、戒行寺坂を休み休み上り、鉄砲坂を上り、学習院初等科を過ぎ、赤坂迎賓館近くの四谷見附公園に到着。

四谷見附公園でお昼休憩の後には、いよいよ本日のメインイベント、赤坂迎賓館見学。館内は、見学のために上り下りする階段の手すり以外はすべて国宝、ということで、たくさんの係員が一切の物に触らせないように目を光らせていた。迎賓館本館は、ヨーロッパ産の大理石の柱や、金の装飾品、絵画、京都西陣の金華山織の美術織物、きらびやかなシャンデリアで彩られ、実際に行われた世界中の要人達との会談や調印式、記者会見の写真が展示されていた。しかし、迎賓館本館は、元々、皇室の離宮だったものを迎賓館に用途変更したもの。日本の迎賓館としては、贅を尽くした洋風な館より、和風の館の方が相応しいのでは?と思ったりもした。次は、事前申込で当選した人のみ見学できるという和風別館の方を是非見てみたい。

見学の最後は駅前のカフェでお茶をいただき、解散。

母の万歩計は1万を超えていたが、最後まで皆さんと楽しくご一緒することができた。また、毎回、個人的にはなかなか訪れることのない場所を堪能できて、たいへんよい企画だと思う。親子共々お世話になり、ありがとうございました。



陽運寺 於岩稲荷



於岩(おいわ)稲荷田宮神社

私の故郷

昭和48年卒

森下 志保子（みなべ町梅ヶ丘 在住）



住まいから見える鹿島



私の生家はみなべの町の国道沿いにあり、国道の向こうは海だった。その家の2階のベランダから目の高さに海が見えた。夜、波が砂浜に打ち寄せる「ザザーザザー」という音が私の寝入る前の子守歌だった。また、夕方、紅い太陽が周囲の空と海を紅色に染めながら水平線に沈んでいく風景は圧巻で、幼い頃から私の目に焼きついている故郷の原風景である。

中学2年生の夏休みに祖母に連れられて、祖母の故郷である奈良県の山あいの村に行ったことがある。四方を山で囲まれた土地の坂道に立ち、私は息がつまりそうな感覚に襲われたことを今でも鮮明に覚えている。その時、「ああ！ 私には海のない土地で暮らすことはできない。」という想いが心のなかに湧いた。

しかし、18歳の時、大学に入学するため上京して以来、長年私は海のない東京でそのことを嘆くことすらなく暮らしてきた。若い頃は都会の速いテンポと刺激のある生活が心地よかったのである。たまに帰省すると、海沿いの道を散歩し、自然のなかに身を置いた爽快感につつまれたものの、みなべに帰ってこようと思ったことは一度もなかった。2011年3月11日に東北大地震で原発事故が勃発するまでは…。

その日から一週間後、原発事故の拡大を危惧して、私は故郷の母のもとに身を寄せた。そして、いくら気丈な母でも老齢と病気のために、もう一人暮らしは無理なことがわかった。「私が一緒に住めば、母は施設や病院に入らずに、できる限り長く、母がこよなく愛する家で愛犬と一緒に住める」と考え、私は帰郷を即断した。

このようにして、私は7年前からみなべの国民宿舎の近くの実家で暮らしている。そして、私が決してかなうことはないと思っていた夢のひとつ、「窓から海が見える、温泉風呂のある家に住む」ことが実現した。母が他界してから数年が経つが、母の愛犬だった、いたずらで遊ぶことが大好きなゴールデンリトリバーの雑種犬のリンと、私が東京から連れてきた、おとなしくて甘えん坊の柴犬の太郎と仲良く暮らしている。

今は生まれ故郷のみなべで暮らすことが心身ともに心地よく、のどかな日々が流れていく。新鮮なお野菜、果物、お魚類に舌鼓を打てるのも、みなべ暮らしの醍醐味だろう。

「故郷は遠くにありて想うもの。」という言葉も納得が行くが、故郷で晩年を迎えるのも悪くはないと感じている自分が数年前から存在する。

創業天保五年
株式会社東農園

0120-12-5310
<http://www.godalume.co.jp>

〈直営店のご案内〉

銀座店
東京都中央区銀座8-2-10 誠和シルバービル1F
TEL 03-3571-5858

八雲店
東京都目黒区八雲1-5-3 ベルザ都立大1F
TEL 03-3725-5199

小学校教員から自然農の百姓へ、自然農塾でのチャレンジ

梅の里自然農園

昭和53年卒 ゆそう ひろお 勇惣 浩生 (みなべ町晩稲 在住)



「なんとも爽やかな美しい姿で育っていますね。」
稲刈りの準備をしていた僕に、川口さんが声をかけてくださいました。1998年10月初めの日曜日、「赤目自然農塾」で、僕が借りている田んぼの横を通られた時のことでした。こんなに貧弱な茎数でいいのだろうかと思っていたところへの、そのお言葉。『ああ、これでいいんだ。』僕が本当に自然農に信が入った瞬間でした。「大きさや収量に囚われず、健康なお米を育てる」それこそが大事なことだと腹に落ちた時でもありました。

川口さんとは「自然農」の師、川口由一さん。「自然農」は「耕さず、草や虫を敵とせず、農薬・肥料を必要としない」農のあり方です。その時既に20年にわたって「自然農」を実践。多くの人の求めに応じて開かれた「赤目自然農塾」も10年以上の歴史を刻み、当時でも300人を超える塾生の皆さんが全国各地から毎月足を運んで来られていました。

地球環境の危機的な状況を知った僕は、『環境教育』を学ぶ中で出会った、環境に負荷をかけず、人間社会にも自然界にも、それこそ地球にも何の問題も招くことがないという自然農の理念に共鳴して赤目塾に通いました。そして、地元みなべでも教職のかたわら

週末農業でのお米作りを続けていく中で、『自分にもちゃんと育てられるだろうか』という不安は、数年後には完全に解消されました。「誰でも、機械や肥料・農薬を使わずとも健康なお米をしっかりと作ることができる!!」今なら何の迷いもなくそう言い切ることが出来ます。百聞は一見に如かず。今の川口さんの田んぼが、うちの田んぼが、言葉は発しないまでも雄弁に物語ってくれています。ただそれでもまだ数年間は『お米はともかく、お野菜は自然農でちゃんと育てることは難しいのではないか』と考えていた僕でした。でも、それも、全国各地で専業で取り組まれている先輩方の田畑を見せていただく中で、『僕にも育てられるはずだ。僕も生産者としてお届けもしたい。』との思いが募りました。同時に、『僕のライフワークは?』『(その後、思いがけず生まれてきた長女に、)僕が胸を張れる責任ある生き方とは?』との問いかけも続けた結果、満を持して教職を早期に退き自然農の百姓になりました。『自然農』との出会いから9年後、今から12年前のことです。

正直、農業経営にはまだまだ厳しいものがありますが、幸いなことに、紀州みなべの「南高梅」の自然農での栽培も順調に展開して、これまで農業を続けていられています。とてもありがたいことだと思っています。

一方、4年前から「赤目自然農塾」に倣って、毎月「梅の里自然農塾」を開くようになりました。これからは、「自然農」の素晴らしさと、先達の皆さんから学んできた、もとより時間の流れと共に豊かさを増していくありがたい自然環境にある日本が今後目指すべき農の一つのありかたを、多くの皆様に伝えていくことも僕の使命の一つだと考えています。

みなさまも機会があればぜひ一度うちの農園にお立ち寄りください。



半農半Xの農業ライフ (4)

昭和46年卒 森下 武子
(東京都新宿区 在住)

八ヶ岳

私の農業ライフは、千葉県山武市での息子の有機野菜農園「わたなべ農園」が昨年4月から始まったことで、これまでの八ヶ岳の家庭菜園と両車輪で進展することになった。

八ヶ岳の家庭菜園は2年目となり、農作業にもだいぶ慣れてきた。昨年は7~8月に雨が少なく、逆に9~10月に雨が多かった。夏に雨が少なくてトマトは豊作で甘くなったが、キュウリやナスは夏の水と秋の日照不足で前年に比べてあまり育たず収量が少なかった。里芋やニンジンも種まきが遅かったこともあり、日照不足で殆ど育たなかった。ジャガイモ・サツマイモ・トウモロコシ・カボチャは収穫時期の前に、イノシシカタヌキなどに食べられてしまって、悔しい思いをした。他方、ルッコラは良く育ち、味・香りが濃く、非常に良い出来であった。カブやパクチーも比較的上手く育った。落花生の出来はそこそこであったが、粒は小さい。大根はあまり育たず、小目であった。ルッコラとトマトを除いて、総じて前年より作物の出来が良くなかったのは残念である。

わたなべ農園は、山武市といっても最寄駅は八街駅で、八街ブランドの落花生を1,000坪近く栽培している。落花生は、夏にはゆで落花生を消費者に直販し、冬には10kg弱を自分で煎って、煎り落花生として消費者に直販した。両方とも香ばしくて美味しいと非常に好評であった。しかし、収穫作業は単純だが人手がかかり、11月は、夫はもちろん私も家事手伝いに加えて落花生の収穫作業のため10日近く千葉に滞在した。

残りの1,000坪は、消費者に野菜パック(5~8品目の野菜)を送るために、多品種少量栽培で、トマト・キュウリ・ナス・里芋・ヤーコン・ゴボウ・白菜・大根・カブ・多種の葉物などが育っている。冬野菜では、小松菜・カブ

・ホウレンソウ・カラシ菜などが甘くて味・香りが濃いと購入者から好評であった。

野菜パックの個人宅配も友人・知人への販売が徐々に増えてきている。また、会議場併設のレストランでも野菜を購入してもらっているが、料理用だけでなく、小松菜のパウンドケーキやゴボウチップなども作ってくれているのが嬉しい。有機野菜で高品質との評価も徐々にできてきつつある。

12月下旬には、毎週末開催される東京青山のファーマーズマーケットに初めて出店して、ほぼ完売した。他の出店者の野菜と比較して、当園の野菜が非常に新鮮で大きく、元気だった。息子もそこで完売できたことが大きな自信となったようだ。

今年は、昨年の2000坪を返却して、息子の自宅隣の2,300坪の畑で野菜を栽培する。昨年夏ごろから緑肥を育てて土壌作りをしており、八街ブランドの落花生を昨年同様1000坪程度作付し、さらに、高価格で売れるショウガやムクナ豆の栽培にも取り組む。

今後の課題は、売上を増やして2300坪の小規模農業でも生計を立てていくことである。まず今年の作付計画や農作業計画を立て、それに伴い栽培・収穫の人手確保が重要となる。親の手伝いだけでなく、友人・知人や大学の先輩・後輩などへの農作業・収穫応援依頼や農園体験ツアーの計画、アルバイトや研修生の確保など、工夫が必要となる。もちろん、宅配消費者やレストランなどの販売先の開拓も必要である。

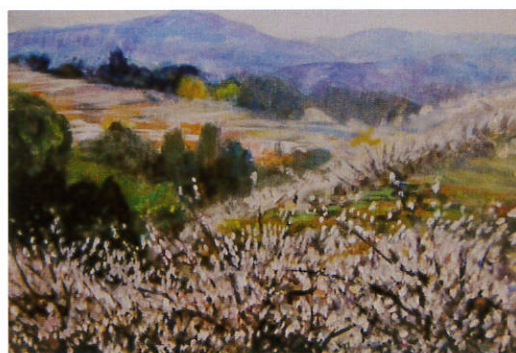
私も、今年は、八ヶ岳ではあまり手がかからない野菜を栽培して、わたなべ農園により注力して家族農業ビジネスを軌道に乗せたい。今後10年はこちらの支援を行うという気持ちが固まってきた。



千葉県山武市わたなべ農園



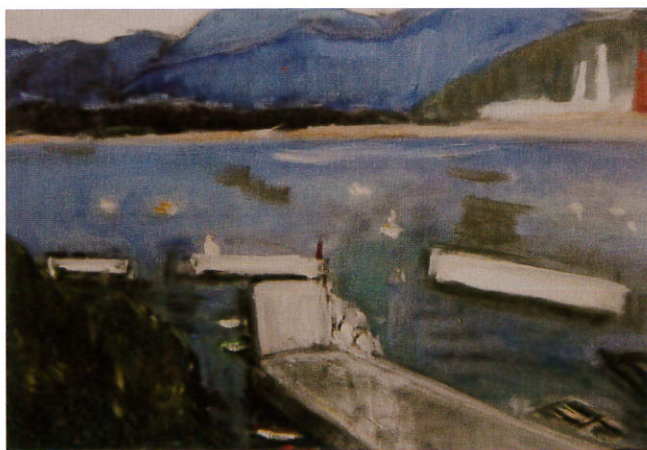
「LA VITA 1」
油彩 F130 第80回記念独立展



南部梅林 油彩 F8



鳥とひまわり 油彩 F15



和歌浦 油彩 F10

栗岡 和美さんのプロフィール

栗岡 和美さん(旧姓野村 昭和13年生)
現独立美術協会会友 兵庫県宝塚市在

[画歴]

幼少の頃より伯父 鈴木重雄(画家・南部高校美術教師)に教えを受ける。高校時代は美術部に所属、大学時代、結婚後も暫く描いていなかったが、カルチャーセンター 絵画教室等で再開、8年前に独立美術協会全国公募展に応募、5回入選して一昨年会友となる。



マル子ちゃん 水彩 F6



平成29年 春の叙勲 竹中 美晴さん 瑞宝重光章を受章

竹中さん受章おめでとうございます。

受章されたことを聞いたとき、高校のクラスメートの一人として、驚きとともに、とても誇らしい嬉しい気持ちになりました。昨年6月の学友会東京支部の懇親会ではもちろんのこと、同年秋にはクラス会を開いてお祝いしようということがすぐに決まりました。

竹中さんは、南部川村(現 みなべ町)晩稲出身(東京都大田区 在住)。昭和40年南部高校を卒業後、現役で東京大学法学部に入学。昭和44年卒業後、農林省に入省(食糧庁企画課)。昭和47年 ドイツ・ハイデルベルク大学に政府派遣在外研究員として2年間留学され、帰国後、水産庁総務課法令係長や農蚕園芸局企画官、外務省での研修の後、再び在ドイツ日本大使館一等書記官として経済・貿易関係に力を発揮されました。

その後は、林野庁林政課総括課長補佐、農水大臣秘書官、水産庁水産流通課長、広島県農政部長、経済局金融課長、林野庁林政課長、官房秘書課長、畜産局審議官、経済局長、官房長、農林水産審議官(WTO農業交渉等国際関係担当)など、様々な分野で活躍されました。まさに日本の農林水産業全般にわたって貢献された方です。

退官後も、農水産業協同組合貯金保険機構理事長、全国農業共済協会会長、そして現在は海外漁業協力財団理事長としてご活躍中です。我が国の漁船が広大な海域から締め出されるという重大な危機に直面する情勢の中、多くの国・地域・国際機関において海外漁業協力事業を展開し、強い信頼関係を築くとともに、水産物の安定供給の確保・排他的経済水域(海底資源は支配下においても、他国の船舶の航行は自由)以外の水域における水産資源の適切な保存・管理・漁場の確保など、漁業外交の推進に努めておられます。太平洋諸国やアフリカ沿岸諸国など様々な国に出かけることが多いようです。

竹中さん、今後もなお一層のご活躍を期待しています。

(齋藤 文子 記)

◎ ご寄付ありがとうございました。

坂本 龍

岡村 茂子

松原 永久

上記の方々からご寄付いただきました。心より御礼申し上げます。

*敬称略

顧問	会計監査	幹事	会計	庶務	事務局長	副支部長	支部長	第八期 (平成29年4月～31年3月) 新役員紹介
前田 至美 (昭和29年卒)	寺西 寛志 (昭和33年卒)	宮本 双葉 (昭和30年卒)	杉野 雅子 (昭和42年卒)	齋藤 文子 (昭和40年卒)	森下 武子 (昭和46年卒)	木村 允彦 (昭和38年卒)	山寄 春樹 (昭和42年卒)	
浜田 好通 (昭和28年卒)	楠本 邦一 (昭和42年卒)	岩本 喜直 (昭和34年卒)	神田 典子 (昭和42年卒)	三本 陽子 (昭和45年卒)				
松山 太郎 (昭和38年卒)		岩本 佳子 (昭和36年卒)						

◎第7期会計報告(平成27年4月～29年3月)

◎第8期予算計画(平成29年4月～31年3月)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	154,430	預り会費当期分受入	10,000
預り会費当期分受入	10,000	総会懇親会費	337,479
当期賛助会費	332,000	役員会議費	87,933
次年以降会費預り	4,000	広報会議費	22,599
総会懇親会費	320,000	会報発行費	169,020
広告掲載料受入	60,000	事務用品費	50,628
本部支援金	60,000	レクリエーション活動費	51,360
御祝儀・寄付他	88,000	通信費	122,201
受取利息	6	交通費	20,050
雑収入	8,000	慶弔見舞金	10,000
		雑費	80,238
		次期繰越金	74,928
合 計	1,036,436	合 計	1,036,436

収入の部		支出の部	
前期繰越金	74,928	総会懇親会費	320,000
当期賛助会費	340,000	役員会議費	70,000
賛助会費預り分		広報会議費	30,000
総会懇親会費	320,000	会報発行費	150,000
広告掲載料受入	80,000	事務用品費	40,000
本部支援金	60,000	レクリエーション活動費	40,000
御祝儀・寄付他		通信費	130,000
受取利息		交通費	20,000
雑収入		慶弔見舞金	10,000
		雑費	50,000
		次期繰越金	14,928
合 計	874,928	合 計	874,928

編 集 後 記

学友会メンバーの方々に、原稿をお願いしましたところ快くお引き受けいただきありがとうございました。編集に関係している役員の皆さんとは、何度も高田の馬場の豊島区民会館にて検討会を持ち、無事発行できスタッフ一同喜んでおります。スタッフの年齢も高くなっておりますので、今後お手伝いいただける方には是非ともご協力をお願い致します。会員増加のためのご協力も合わせてお願い致します。(事務局 楠本)

編集スタッフ

木村 允彦 (TEL・FAX

048-786-3514)

齋藤 文子

神田 典子

三本 陽子

森下 武子

楠本 邦一